

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 3月 27日

東京都福祉サービス評価推進機構
 公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 [Redacted]
 所在地 [Redacted]

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号 [Redacted] 機構 20 - 253
 電話番号 [Redacted]
 代表者氏名 [Redacted]

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	[Redacted]	経営	[Redacted]
	②	[Redacted]	福祉	[Redacted]
	③	[Redacted]	福祉	[Redacted]
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ		指定番号を入力してください	
評価対象事業所名称	港区立台場児童館			
事業所連絡先	〒	135-0091		
	所在地	東京都港区台場1丁目5番1号		
	TEL	03-5500-2363		
事業所代表者氏名	大木奈津枝			
契約日	2024年 7月 22日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 11月 18日			
利用者調査結果報告日	2024年 12月 2日			
自己評価の調査票配付日	2024年 11月 18日			
自己評価結果報告日	2024年 12月 2日			
訪問調査日	2024年 12月 24日			
評価合議日	2025年 3月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者及び保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にて回答して回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ郵送してもらう形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
 本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>(1)基本的人権・子どもの権利条約の尊重 (2)利用者・利用児童の側に立った対応と運営 (3)職員の意識向上とモチベーションの維持 (4)地域との協働 (5)子育て支援施策の実現と一層の充実</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>児童館では「利用者に寄り添い、ともに課題解決をすること」「子どもの遊び活動の援助をすること」「子ども一人ひとりと集団の自治的な成長を支援すること」「発達や家庭環境などで特に援助が必要な児童への支援や継続的な見守りをしていくこと」が主な役割と考えています。 そのためには「豊かなコミュニケーション力」「柔軟な調整力」「適切な状況把握と判断力」「職員としての自覚を持ち周囲と協力して職務に当たる協調性」「真面目に学ぶ姿勢を持ち続ける勤勉性」が特に求められます。</p> <p>(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>児童館に求められている役割と区職員として自覚すべきことを十分に理解して職務に当たることを期待しています。また区の目標、児童館の目標を理解したうえで各自がしっかりと自身の目標をもち、その達成に向けて成果を上げることについては他力本願ではなく自発的に取り組む姿勢を持つことが大切だと考えます。</p>

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。13世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、施設内回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

82

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
82	0	82
13	0	13
15.9	0.0	15.9

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が76.9%、「満足」は15.4%、「どちらともいえない」が7.7%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて92.3%という、大変高い評価を得ています。自由記述では「学童、児童館に行くことを、こどもはとても楽しみにしています。」というコメントがありました。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	11	2	0	0
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は15.4%、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	13	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%という結果となり、大変高い満足度を得ています。自由記述では、自分の意見が通らない事もある、という意見が寄せられていました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	11	1	1	0
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が7.7%、「無回答・非該当」は0%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では、おやつを食べるだけなのでつまらない、という意見が寄せられていました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	10	1	0	2
この項目では「はい」の回答が76.9%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は15.4%という結果となりました。自由記述では「イベントなどについて、話したりする機会が無かったので分かりません。」というコメントがありました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	11	0	0	2
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は15.4%という結果となり、高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	2	1	0
この項目では「はい」の回答が76.9%、「どちらともいえない」は15.4%、「いいえ」が7.7%、「無回答・非該当」は0%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	11	1	0	1
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は7.7%という結果となり、高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	0	0	1
この項目では「はい」の回答が92.3%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は7.7%という結果となり、大変高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	11	1	0	1
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は7.7%という結果となり、高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	1	0	1
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は7.7%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では、怒られる事が多いと感じる、という意見が寄せられていました。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	9	1	0	3
この項目では「はい」の回答が69.2%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は23.1%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	11	1	0	1
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は7.7%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「そのような機会がまだありません。」というコメントがありました。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	8	1	0	4
この項目では「はい」の回答が84.6%、「どちらともいえない」は7.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は7.7%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「そのような機会がまだありません。」というコメントがありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
カテゴリー1の講評		
<p>職員や保護者に向けて児童館の理念などの理解が深まる取り組みをしています</p> <p>年度始めの職員会議において児童館としての理念・ビジョンや基本方針を館長から職員に伝え、全体で意見交換をしたうえで理解を深めています。「自分たちで決めた」という意識が持てるように、必ず職員会議の中での協議を経て決定しています。掲示板や事務室内への掲示により、目に触れる機会を多く作り意識付けをしています。保護者に対しては、児童館内への掲示や保護者会での説明をおこなっています。また地域に向けては地域懇談会にて児童館が目指していることを伝えています。</p> <p>館長は自らの役割や責任を職員に周知し、理念の達成に向けて組織を牽引しています</p> <p>児童施設等運営マニュアルの中で館長の役割を定めており、職員に共有しています。また、決定した組織目標及び年間計画にもとづき、館長を含めた各自の役割分担を定め、職員会議の中でその役割と責任について話をしています。目標及び年間計画にもとづいた役割分担や職員各自が定めた目標に対して自己申告書を作成し、年3回の個別ヒアリングの中でその検証と目標設定の修正をおこないます。また、日々の運営や事業実施において事業所が目指していることの実現や自らの役割を果たす上でのアドバイスをしています。</p> <p>重要事項の検討・決定手順を定め、職員や保護者へ経緯を含めた共有をしています</p> <p>事業の進め方や手順はマニュアルに定め、新たな課題や提案は、提案者が連絡会で提案内容や検討課題を提示しています。また、各自で事前に検討課題を理解をしたうえで会議で検討・決定する流れであることを周知しています。港区や支援部より決定事項が伝えられた際には、連絡会や職員会議で、決定に至る経過や根拠を含めて内容を周知しています。また、必要に応じて根拠資料を回覧しています。利用者に対しては、決定の内容により、必要なことは丁寧に伝えています。その際、決定内容とその経緯が理解しやすいように説明文や資料などを添えています。</p>		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者の意向やニーズ、職員の運営に対する意向を把握し、課題を抽出しています</p> <p>利用者の意向についてニーズを把握するために、年1回学童クラブ保護者及び利用児に対するアンケートで情報を収集しています。乳幼児事業については年度末に利用者アンケートを実施し、次年度の実施内容に反映しています。さらに、児童館まつりなど大きな行事の際にも、行事参加時にアンケートを実施しています。運営に対する職員の意向を把握・検討するために、年間事業計画及び年間組織目標の策定において、全職員の意見を聞き取るため、前年度の反省なども含めたアンケートを踏まえて職員会議にて決定しています。</p> <p>保護者や子どもからの意見をもとに、さまざまな改善をおこなっています</p> <p>学童クラブの子どもが勉強できる場を確保してほしいという意見や、時間がないといった意見を受け、週1回の「スタディルーム」を開設しました。設計の段階では、基本的に中高生専用室として用意した部屋を、児童からの要望により小学生児童でも希望内容や時間帯を聞き取り使用できる仕組みに変更しました。中高生が6時過ぎまで勉強に集中したいという要望に応じて、学童クラブの時間延長時間までセルフスタディルームを1部屋開放しています。</p> <p>事業計画を見直し、地域や利用者の状況に柔軟に対応しています</p> <p>港区基本計画、実施計画、地域保健福祉計画にもとづき、地域に根差す児童館として、地域状況や環境を把握し、年間計画や組織目標を策定しています。事業計画を見直し、地域や利用者の状況に柔軟に対応しています。港区の現状については、館長会で共有されており、支所運営会議で情報が発信されています。また、地域の自治会長などで形成されている地区委員会や地域連絡会に出席し、台場地域の情報の収集やニーズの把握に努めています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>社会人及び福祉サービスに従事する者として守るべき法などを全職員に周知しています 区の悉皆研修として、接遇や危機管理、不適正な対応の防止について全職員が受講しています。港区児童館長会主催で行動規範について検証する機会を作り、研修の主催をしています。職員の参加を促し、その内容について全職員が関わり、OJTをおこなっています。日々の連絡会や週1回の職員会議の中で報告事項などに係る守るべき法や規範意識、倫理観を意識した内容で話をしています。また毎週実施している職員会議のうち月1回はOJTの機会としています。</p> <p>利用者の意向を把握し、苦情解決制度や相談窓口の周知をしています 児童館への意見は「ご意見箱」を常設して意見を入れやすいように、用紙を用意しています。その他にも子ども若者支援部や管理課などの相談窓口があることを「あなたの声を聞かせてください」のポスターなどで周知しています。毎週こども会議担当者が、内容を確認して共有をおこない、必要に応じて職員会議の中で協議し、こども会議でこどもたちと一緒に考えて対応をしています。</p> <p>台場地区の整備当初から設立された施設として地域に根付いています 台場地区ができた当初から設立されている公立施設の児童館として、地域社会に根付き「困った時には児童館に相談する」ことが合言葉になる程、地域から頼りにされています。夏祭り、ハロウィン、お台場プラージュ、水辺フェスタなど地域行事には積極的に参加し、その中で各世代の方々と触れ合う中でニーズを把握しています。さらに、日常的に地域の方が出入りしやすい環境を作り、会話の機会を多く持っています。</p>		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(00000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>さまざまなリスクを検討し、各マニュアルを作成して対策をしています</p> <p>事故や感染症、侵入、災害、経営環境の変化などのリスクについて、常に検討し対応については各マニュアルを作成し、対策を講じる準備を整えています。さまざまなリスクの内容や規模に応じて優先順位を考えています。事象が発生した場合には「事件・事故等危機情報連絡票」により、速やかに詳細経過報告とその内容を共有して要因や対応を検討・分析して再発防止に努め、その内容を全員で共有し、関係各部署にも報告する体制を整えています。</p> <p>各種訓練を実施し、万が一に備えてヒヤリハットなどを活用し、予防対策を講じています</p> <p>アレルギーや不審者、地震、火災などに対応する訓練を実施し、万が一に備えています。ヒヤリハットについては気づいたことを適宜情報共有して対応策を検討し、予防対策や再発防止に努めています。各種会議において他施設などの事件や事故について情報の共有をしています。また、対策防止策を会議内で再検討する場合があります。台場児童館専用のアレルギー対応マニュアルや地震発生・不審者対応・脅迫電話などの防災防犯マニュアル、火災発生時や地震発生時の動きなどを作成し、よりの確な対応ができるようにしています。</p> <p>情報セキュリティ関係の職員教育をし、適切な情報漏洩対策を講じています</p> <p>情報セキュリティや個人情報保護についての研修を全ての職員が受講しています。また、実習生やボランティアにも「児童館で働くにあたって」の文書を渡し、内容の確認をおこなっています。各種情報は事務室内のファイリングBOXで整理し、閲覧しやすいように表示や分類に配慮しています。重要かつ機密の情報については必ずカギのかかる保管庫で保管しています。PCの管理については部署ごとにアクセス権限を設けており、職員しかアクセスできない設定をしています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ5の講評		
<p>明確な基準による採用や人員の配置をおこない、より良い人材構成に努めています</p> <p>人材の確保として、常勤職員と会計年度任用職員区分Aについては、港区として募集と採用をおこない、配属について港区人事課が決定します。会計年度任用職員区分Bについては、各管理課と施設での採用で、関係者から紹介や地域の卒業生から求める人材に声がけして採用をしています。異動および配置は本人希望を受け止めつつ区の人事課で決定しています。児童館の現状や職員の育成状況について詳細に管理課を通じて人事課に伝え、より良い人材構成に努めています。</p> <p>本人の伸ばしたい能力や求められる能力を考慮して研修計画を立てています</p> <p>各自で自己申告書を作成し、ヒアリングをおこないます。本人の伸ばしたい能力を相互確認したうえで育成計画を立てています。職層別研修と実務研修、悉皆研修をおこない、それぞれ求められる能力や実務に直結する知識や意識、技術を習得します。年間計画の中で、各自が受け持つ役割や担当項目を決め、全体に共有をして振り返りや見直しをしています。各自の自己申告書により自身の役割に則った目標を立て、定期的に振り返りをしています。振り返り際には、館長と課長ヒアリングを経て方向性を相互で確認し、支援をしています。</p> <p>職員の得意分野を見出し、活かす取り組みを数多く経験できるようにしています</p> <p>児童館業務の楽しさが感じられるような日常となるように、職員の得意分野を見出し、活かす取り組みを数多く経験できるようにしています。館長自ら、率先して挨拶や日常のコミュニケーションが活発におこなわれる雰囲気づくりをしています。事業担当の組み合わせは、経験の違いやタイプを配慮して共に高め合えることができる配慮をしています。日常的な勤務状況を把握し、人事庶務システム上で勤務時間や休暇取得状況についても確実な把握をしています。育児に対する権利時間や個別事情による時差勤務も認め、安心して働ける環境にあります。</p>		

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>大規模な施設改修が終わり、仮施設からの移転に向けて、安全で安心して利用できる施設運営をおこない、利用者が安心してのびのび活動できるように、衛生的且つ整理整頓されている環境を整えることを目標に設定しました。また、コロナ禍により事業や交流の縮小が長期間続いた生活から、少しずつ日常に戻ってきている年度で、安全と衛生管理を徹底しながらも意識的に交流を図る事業を取り入れていこうと考えました。利用者である子どもや保護者の声に耳を傾け気持ちを受け止めることから事業拡大を進めていきます。10月が新施設への移転だったため、夏休み以降に新施設への見学やレイアウト、飾りつけの検討などを子どもたちも含めておこないました。新施設での初めての児童館まつりはリニューアルオープンイベントを兼ねて、改修に関わった業者の皆さんとも連携して「様々な職種で働く人」にも子どもが目を向ける機会としました。レイアウトや装飾をともに考える機会を作ったことで、児童館を大切にきれいに使っていこうという気持ちが育つ機会となりました。安心安全で衛生的な施設となったので、職員も利用者もきれいに清潔に整理整頓された状態を保とうと意識することができました。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>施設の大規模な改修後、新しい施設へのスムーズな移行をおこない、利用者が安心して利用でき、衛生的で整理された環境を整備する取り組みです。そのことに加えて、コロナ禍で自粛していた交流についても回復・拡大するという狙いも持っています。新施設のレイアウトや飾りつけについて、子どもと一緒に検討をおこない、案内表示と部屋の配色をそろえ、利用者がわかりやすい工夫なども見られます。移転の詳細を周知するために、説明会を複数回実施し、掲示や配布物による案内もおこなっています。これらの取り組みは、子どもが普段は経験できない貴重な体験となりました。さらに、改修工事の業者の方たちと連携してリニューアルオープンイベントを企画し、子どもがさまざまな仕事を知るためのきっかけにもつなげています。自分の周りにさまざまな形で働いている人がいて、そのことで安全が守られ、安心して過ごせることを子どもが強く意識できる機会としても有益だと考えられます。大規模な改修という普段はない機会を利用して、子どもにとってさまざまな貴重な体験ができる工夫が見られます。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

コロナ禍で友達とのコミュニケーションや各種イベント実施も制限された期間を経験し、こどもの気持ちが萎縮している様子が見られ、職員においても遊びの展開の機会が少なく、スキルアップをはかる必要が感じられたため、異年齢や異世代間の交流を活発におこなうこと、年齢や個々に応じた遊びを展開し、一人ひとりが生き生きと活動できる場を提供することを目標としました。具体的な取り組みとして、児童館まつりではコロナ前のまつりの復活とリニューアルオープンを記念して「かえってきたシン・児童館まつり」と命名し、こども会議やこども実行委員会でイメージ作りからおこない、盛り上げました。お祭りやその他イベントでは保護者や地域の方々にも手伝っていただき、交流の機会となるように工夫しました。バスによる遠足や戸外での活動を多く取り入れ、交流して楽しめる企画を実施しました。これらの取り組みによって、1年間でこどもたちの表情が明るくなり、積極的に友だち同士で関わる姿が多く見られるようになり、地域関係者や保護者の方とこどもたちとの交流も多くみられるようになりました。久々の大きなイベントを複数企画運営することで、職員のスキルアップにもつながりました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

コロナ禍におけるこどもとのコミュニケーション機会の減少や、職員の規模が大きいイベントを企画運営する機会の消滅をうけ、異年齢や異世代間の交流を活発にすることと、職員のスキルアップを目標とした取り組みです。児童館まつりの企画では、建物改修工事後のリニューアルオープンを記念して「かえってきたシン・児童館まつり」と命名することでイメージ作りから取り組んでいます。近隣の施設に案内をだしたり、食べ物の提供をしたりして、参加者が多くなるような工夫もおこなっています。改修工事をおこなった業者に協力してもらい改修工事にまつわるクイズをおこない、保護者や地域の方にも手伝いに参加してもらい、イベントの準備や運営をすることで、交流の機会となるような取り組みとなっています。このような取り組みの結果、コロナ禍で減少していたコミュニケーションの機会を増やすことができ、職員も大きなイベントの企画運営を経験することでスキルアップにつながっています。今後も継続的に異年齢や異世代の交流が活発となるような取り組みを実施していくことが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>児童館や学童の案内を通じて、保護者が安心して利用できる配慮をしています</p> <p>港区共通の「小学生の居場所について」の児童館案内や児童館だよりを発行し、カモメキッズ、カモメキッズぶち、学童クラブだより、港区ホームページなどで情報を発信しています。また、入園前の学校説明会や就学前健診の際には、事業所案内や登録票、説明文書を配布し、児童館の利用方法やサービスの内容を直接説明しています。そのほか月のおたよりを利用して情報を発信し、保育園や区民センター、総合支所、クリニックなど、利用者の目につきやすい場所に配布し、サービスを選択する際の不安を軽減できる配慮をしています。</p> <p>提供する情報は、子どもや保護者の特性を考慮し、わかりやすさに工夫を施しています</p> <p>パンフレットなどにはイラストを多用して見やすさを追求し、子どもが直接見る箇所にはふりがなを入れるなど、読みやすい表記にしています。また、児童館案内は英語版も作成し、多様な利用者に対応しています。発送面で特に配慮が必要な子どもたちへの受け入れ体制や利用方法については、港区学童クラブの入会案内に明記し、分かりやすく伝えています。パンフレットは年度始めに、ホームページは毎月25日に更新をおこない、職員が担当して館長が最終確認をする仕組みで、常に最新の情報を利用者へ届けるように努めています。</p> <p>問い合わせや見学の要望には、利用者の個別状況に応じて柔軟に対応しています</p> <p>見学は随時受け付けており、電話や直接訪問での申し込みに対応し、館長または副館長が案内しています。見学時には、施設が大切にしている、子どもたちの安全な遊び場と自由な時間の確保、遊びから自主性や社会性を育むこと、子育て家庭の積極的支援、地域と一体となった広い視野での子育てを柱に、主な取り組みを具体的に伝えています。さらに、放課後の居場所に関する全体像を説明し、今年度から新たに作成した冊子を活用して、台場児童館や学童クラブの特色をよりわかりやすく説明しています。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>児童館と学童の利用者へ説明会を開催し、詳細な情報を提供しています</p> <p>学童クラブ利用者には、入会前に必ず説明会を開催し、必要な書類の配布と口頭で内容を説明し、不明点を解消するように努めています。また、児童館利用者に対しては、入学説明会や個別案内をおこない、ホームページにも児童館の利用案内や注意事項を掲載して情報提供をおこなっています。利用者負担金などの詳細は、学童クラブの入会案内に記載し、個別面談を通じて説明し、理解を得ています。写真撮影やアレルギー対応に関する同意書も事前に取得し、同意が得られなかった場合には、職員会議や登録カードで周知しています。</p> <p>学童クラブ入会時に、個別面談でこどもの状況を把握し支援計画を作成しています</p> <p>学童クラブ入会時には、児童票の提出や個別面談を通じてこどもの個別事情や保護者の要望を把握し、それをもとに適切な支援を計画しています。児童館の利用登録では専用の登録票を提出してもらい、必要事項を確認しています。利用開始直後には、職員が個別に館内を案内し、不安なく過ごせるように丁寧に声をかけ、自然な友だちとの交流を促しています。特に新1年生に対しては、入会初日に部屋の案内や遊具の説明をおこない、4月初旬には1年生向けプログラムや初心者向けのスポーツ講習会を実施して、楽しく安全に活動できる環境を整えています。</p> <p>子どもや保護者が不安を感じないように生活の連続性を重視した支援をおこなっています</p> <p>学童クラブを卒会した後も、一般利用を通じて児童館を引き続き活用できる環境を整え、必要に応じて学校から直接利用できる制度について説明しています。また、児童館が中高生まで利用可能であることを伝え、卒会後も気軽に立ち寄れる場所として継続的に利用を促しています。子どもや保護者が困ったり悩みを抱えたりした際は、いつでも相談に来るように声をかけ、安心感を与えるように努めています。このような声かけや支援を通じて、卒会後も児童館が子どもと保護者にとって心強い存在であり続けられる配慮をしています。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況 10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

年間目標にもとづき育成支援計画を立案し、必要に応じて見直しをしています

学童クラブでは、育成支援の計画を年間目標にもとづき立案し、必要に応じて柔軟に見直しをおこなっています。また、特別な配慮が必要な子どもについては、個別日誌を活用して状況を記録し、日々の連絡会で職員間で情報を共有することで、個別の対応を検討しています。保護者とは必要に応じて連絡を取り合い、支援計画や対応方法について意見交換をおこない、学校とも年2回の連絡会や個別の連絡を通じて情報を共有しています。育成支援の目標や計画は保護者会で説明し、内容や進捗を共有しています。

学童クラブでは、日々子ども一人ひとりの情報や個別対応を記録しています

学童クラブでは、子ども一人ひとりに関する情報を適切に記録する仕組みを整えています。日々の日誌に、子どもの状況に応じた個別情報を記載し、特記すべき内容は別紙として児童票とともに保管しています。また、保護者から得た情報や個別の配慮が必要な内容については、グループチャットを活用し、職員間で迅速かつ確実に情報共有をおこなっています。育成支援の計画にもとづき、支援内容を具体的に記録しており、特別な支援が必要な子どもに対しては、個別日誌を用いて状況や援助の内容を詳細に記録しています。

職員間で子ども一人ひとりの情報や育成支援計画を共有し、円滑に伝達しています

職員間での情報共有においては、育成支援計画や記録を日々の連絡会を通じてこまめに共有しています。また、事務所内の閲覧可能なファイリングBOXに計画や記録を保管し、職員全員が確認できる体制を整えています。さらに、グループチャットを活用することで迅速な情報共有を図り、職員間で常に情報が行き渡るようにしています。計画の立案については、専門講師を招いて年3回以上の研修を実施し、個別児童の対応について学ぶ機会を設けています。また、研修内容は代表者が職員会議で共有し、職員全体のスキル向上を図っています。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>こどもの意思や権利を尊重し、一人ひとりが安心できる環境を提供しています</p> <p>日常の援助は、こども一人ひとりの想いや個性を尊重し、こども自身が安心して過ごせる環境を整えるように努めています。こどもの権利条約にもとづき、権利が適切に守られているかを定期的に確認し、職員間で共有しています。具体的には、職員側の考えや価値観を押し付けることなく、こどもの意思や感情に寄り添いながら関わることを大切にしています。職員間では、日々の会議や研修を通じて、こどもへの関わり方に対する意識を統一し、こどもたちが持つ多様な価値観や背景を理解し尊重する姿勢を確認し合っています。</p> <p>こどもと保護者の多様な価値観を把握し、それぞれに配慮した支援をおこなっています</p> <p>日々の支援は、相手の考えや背景を尊重し、こどもと保護者の多様な価値観や生活習慣に配慮した援助をおこなっています。また、多文化共生を意識し、地域の文化的多様性を取り入れたイベントを企画し、さまざまな文化や価値観を紹介する機会を設けています。さらに、児童館での活動やイベントには複数の選択肢を用意し、こどもや保護者が自分たちの価値観や生活習慣に合ったものを自由に選べる環境を整えています。こどもの興味や特性に合わせた個別の活動提案にも力を入れ、一人ひとりが自分らしく過ごせる場を提供しています。</p> <p>こども同士のトラブル防止のために、個別対応と組織的取り組みをおこなっています</p> <p>館内でのこども同士のトラブルを防ぐため、個別対応と組織的な取り組みを通じて予防と再発防止に努めています。乱暴な行動や言葉が見られた際には、即座に対応し、当事者が相手の気持ちを考える時間を設けるように心がけています。また、職員間で迅速に情報を共有し、類似の問題が再び起こらない配慮をしています。児童館では、全員が参加できるグループ活動や協力型のゲームを積極的に取り入れ、こども一人ひとりが孤立せず自然な形で交流を深められる環境を提供し、安心して過ごせる居場所作りを推進しています。</p>			

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>行政のマニュアルを職員全員で共有し、統一した運営を実施しています</p> <p>港区共通の学童クラブ運営マニュアルをはじめとする各種手引書やマニュアルを整備し、それにもとづいてサービスを提供しています。これらのマニュアルには運営、アレルギー対応、防災防犯対応、財務会計、食品衛生、指導方法など多岐にわたる業務の基本事項や手順が明確に記載されています。また、全職員にこれらのマニュアルを周知するため、年度始めの職員会議にて館長が内容を説明しています。さらに、職員間でマニュアルの内容を共有し、それぞれの業務に活用することで、全員が同じ基準にもとづいて業務を遂行できるようにしています。</p> <p>サービスが定められた手順に沿っているか定期的に確認し、必要に応じて修正しています</p> <p>業務の一定水準を確保するため、提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを適宜確認し、必要に応じて手順書やマニュアルの見直しや修正をおこなっています。施設内独自のマニュアルについては、職員全員が参画し、さまざまな経験を持つ職員の意見を積極的に取り入れることで、内容の向上を図っています。改定があった場合には、職員会議を通じて全員に周知し、業務の透明性と一貫性を確保しています。また、日常的に手引書を活用し、わからないことがあった際にすぐ確認できるように、専用フォルダで保管しています。</p> <p>区の方針にもとづき、年度ごとにサービス内容を見直し、意見を反映しています</p> <p>提供するサービスの基本事項や手順については、港区の方針にもとづき、子ども若者支援課を中心とした館長会で年度ごとに見直しをおこなっています。この見直しの際には、職員や子ども、保護者からの意見や要望を反映することを重視しています。学童クラブと児童館では、学校の長期休暇中のお弁当持参が保護者にとって負担であるという意見を受け、お弁当配送システムを導入しました。また、職員からの提案をもとに、非常勤職員の勤務体制の改善をし、一日を通して勤務することで、施設全体の流れやこどもの様子を把握できるようにしています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4																
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29															
1	<p>評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																
評価項目1の講評																		
<p>館全体で家庭やこどもの状況を丁寧に把握し、職員間で共有しています</p> <p>学童クラブでは、入会決定時や説明会で保護者との面談をおこない、各家庭の状況やこどもの全体的な姿を把握し、職員間で情報を共有しています。児童館では、こどもの興味や発達に応じた活動や遊びを提供し、安心して過ごせる空間を整えています。工作好きのこどもには専用のコーナーを設け、運動が好きなこどもには体を動かす機会を積極的に提供しています。また、不登校や学校への行き渋りがある場合には、保護者や学校と連携し、児童館での過ごし方や学校送迎など柔軟な対応をおこなっています。</p> <p>子ども同士のトラブルがあった場合は、職員が双方の気持ちを聞き取り対応しています</p> <p>地域性から、学年や国籍を超えた交流が自然とおこなわれており、時折トラブルが発生することがあります。その際には、職員がまず双方の気持ちを丁寧に聞き取り、冷静に話し合える環境を整える配慮をしています。また、異年齢が関わる活動を日常的に設け、互いの違いを認め合う機会を意識的に作っています。職員自身が良好な関係を築き、施設全体をあたためたかような雰囲気の中で大切に、こどもたちに分け隔てなく声をかけ、安心してコミュニケーションが取れる環境を提供しています。</p> <p>特別な配慮が必要なこどもがともに成長できる環境を整えています</p> <p>配慮の必要なこどもがともに生活し、成長できる環境を整えるため、必要に応じた個別対応をおこないながら、友だち同士の自然な関わりを促しています。実際に、車いすを利用しているこどもが遊具を借りに行く際に、友だちが車いすを押して助けたり、興奮してしまったこどもに対して周りのこどもが落ち着くように声掛けをしたりするなど、普段から思いやりのある行動をしています。また、1対1の援助が必要なこどもに対しては、巡回指導の講師のアドバイスをもとに本の読み聞かせや陶芸など、発達を促進する活動を取り入れています。</p>																		
2	<p>評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当					
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当																
評価項目2の講評																		
<p>多彩な活動場所を提供し、こどもが自分に合った環境で過ごせる工夫をしています</p> <p>児童館では、工作室や図書室、遊戯室など、多彩な活動場所を提供し、こどもが自主的に好きな活動を選べる環境を整えています。指導員を各部屋に配置し、年齢や発達に応じた援助をおこなうことで活動の幅を広げ、仲間づくりの支援をしています。遊戯室や広場では、ボール遊び、インラインスケート、一輪車などのスポーツを楽しむ環境を整え、異年齢との交流を促進しています。また、クラブ室やマルチルームでは勉強や静養ができるように静かな空間を設け、こどもたちが自分に合った場所で過ごせる工夫をしています。</p> <p>こどもが集団活動に主体的に関われるように、グループでの活動を取り入れています</p> <p>人数やメンバー構成に配慮し、少人数から徐々に規模を拡大することで、こどもたちが自信を持って関わる体験を積み重ねられるよう援助しています。また、メンバー構成にも柔軟性を持たせることで、こどもたちが新しい人間関係を築きやすい環境を整えています。集団生活が苦手なこどもに対しては、その背景や根拠を職員間で共有し、一人ひとりに合った配慮をしています。グループ活動を通じて関わり方の経験を積み、自信がつくように段階的に支援を進めることで、こどもたちの主体性を育み、集団全体の生活が豊かになるように努めています。</p> <p>こどもが生活や遊びを通じて、基本的な生活習慣を習得できるように支援しています</p> <p>こどもの高さに合わせた手洗い場を設置し、下校後やおやつ前には手洗いやうがいを促し、清潔習慣をさらに強化しています。また、環境面では、食事やおやつ時間を落ち着いて過ごせる空間を整え、必要に応じて食事のマナーを伝えています。さらに、使用後の玩具や教材を自分で片付ける活動を通じて整理整頓の習慣を身につけられるようにしています。キャンプや遠足では自然環境の中で実践しながら学び、七夕やお正月などの季節行事を取り入れて、日本の文化的な生活習慣に触れる機会も提供しています。</p>																		

3 評価項目3

日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

こども会議からアイデアを取り入れ、行事への参加意欲を高めています

行事の企画段階では、こども会議を開き、こどもたち自身のアイデアや希望を聞き取り、取り入れるようにしています。また、児童館だよりやポスターには、こどもが関心を持てる内容を工夫して掲載し、参加への意欲を高めています。達成感を味わえる工夫として、ビーチサッカーグループで交流試合をおこない、ドッジボールグループでは港区選手権への出場を目標に活動を進めています。さらに、児童館まつりでは、希望するこどもたちが実行委員として店舗運営に関わり、準備から当日の運営まで主体的に取り組んでいます。

児童館まつりなどでこどもたちのアイデアを取り入れ、主体的な活動を促進しています

全利用者が参加できる児童館まつりでは、実行委員会を立ち上げ、こども作戦会議を通じてこどもたちからの意見や企画を取り入れ、コーナーや店舗づくりを進めています。例えば「りんご飴を作りたい」「辛いものを売りたい」との意見にもとづき、試作を重ねて店舗運営に反映しました。また、「こんなものを作りたい」といったこども会議からの意見を、リクエスト工作の日として具体化し、スライムやリースペンダント作りなどの工作活動を取り入れています。

こども一人ひとりが意欲的に行事に取り組めるように、保護者の理解や協力を得ています

グループ活動では、開始時や途中経過を保護者に通知し、活動内容やこどもの頑張りを伝えることで協力を依頼しています。さらに、成果発表の場には保護者も参加できるように計画し、ともに活動の達成感を共有できる機会を提供しています。大規模な行事では実行委員会を立ち上げ、こどもたちが主体的に運営に関わるよう工夫し、保護者や地域関係者からの協力も得ています。保護者には、こどもたちが一生懸命取り組む様子を日々の会話やおたよりで伝え、感謝の気持ちを示すことで、次回以降も積極的に参加してもらえる雰囲気作りを心がけています。

4 評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当

評価項目4の講評

こどもが快適に通い続けられるように多様な活動や心地良い環境作りをおこなっています

室内では、遊びや活動の種類に応じて空間を区切り、こどもが心地よく過ごせる工夫をしています。また、工作、スポーツ、読書などこどもの興味や年齢に応じた遊びやイベントを定期的に企画し、魅力的な時間を提供しています。さらに、小さな目標を設定し達成感を得られる活動を通して自己肯定感を育み、通い続ける意欲を高めています。専門講師による陶芸やスポーツ指導なども取り入れ、こどもの自信や技術の向上を支援しています。また、グループ活動や協力が必要なゲームを通じて、仲間作りの場を提供し、こども同士の交流を深めています。

活動の流れを明確にし、こどもが自分の時間を管理できる環境を提供しています

日々の活動やスケジュールをおたよりや掲示物で伝え、こどもが次に何をするのかを把握ができる配慮をしています。具体的には、工作や自由遊び、おやつ、片付けといった1日の流れを明確にし、生活リズムが身につく援助をしています。また、こども同士で声を掛け合う場を作り、おやつや帰りの時間や帰宅時間など共有し、こどもが自分の時間を管理できる環境を整えています。児童館では自由に活動する場を提供しつつ、グループ活動やプログラム参加の自由を保障しています。その中で、こどもが自分の興味や意欲にもとづいて活動を選べるようにしています。

こどもが安心して活動できるように、その日の状況に応じて環境を工夫しています

遊びや活動の状況やこどもたちの落ち着き具合に合わせて部屋の仕切りや配置を変え、集中して取り組める空間や自由に遊べるスペースを整えるなど、こども一人ひとりのニーズに応じた環境作りを心掛けています。また、各部屋には活動内容や安全ルールに関する明確なガイドラインを職員間で共有し、事故やトラブルを未然に防ぐ体制を整えています。戸外活動では、さらに、道路を横断する際や公共交通機関を利用して出かける際には、交通マナーを直前に伝えることで、こどもがルールを意識しやすくしています。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>定期的な地域懇談会で情報共有し、地域全体でこどもの成長や安全を見守っています</p> <p>地域懇談会を定期的に行い、区や保育施設、自治会とともに情報を共有し、地域全体でこどもを見守る体制を構築しています。また、学校懇談会を定期的に行い、全学年の担任との情報交換をおこない、特別な支援が必要な子どもや家庭環境に課題がある子どもへの具体的な援助方法を話し合い調整しています。通学路の安全については、学校、警察、区職員と協力して通学路点検を実施し、危険箇所の把握と対策をおこなっています。また、災害や感染症発生時には、緊急配信メールなどを活用した迅速な情報伝達体制を整えています。</p> <p>学校や保護者と連携し、登校渋りや不登校児童に対して必要な援助をおこなっています</p> <p>不登校などの課題を抱える子どもに対して、学童クラブでは学校や保護者と密に連携し、こどもの気持ちに寄り添った支援をおこなっています。不登校児童については、保護者や学校と相談のうえ、児童館で朝から受け入れる体制を整えています。また、登校渋りで自宅に残っている場合には、自宅に迎えに行き、登校の付き添いをおこなうなど柔軟な対応をしています。さらに、自己肯定感を高めるため、工作やゲームなど達成感を得られる内容を取り入れ、小さな成長や努力を積極的に認めて褒めることで、こどもが自己を肯定できる支援をしています。</p> <p>関係する専門機関と連携を強化し、こどもの個性に合わせた支援をおこなっています</p> <p>配慮が必要なこどもの援助にあたっては、教育機関や福祉関係機関、医療機関などとの密な連携を通じて対応しています。また、発達段階に応じた支援を心がけ、集中力が高いこどもにはパズルや工作を提案し、運動能力が高いこどもには体を使った遊びを取り入れるなど、こどもの個性や得意分野を活かした活動内容を提供しています。さらに、学校や特別支援学校との定期的な連絡会を通じて、こどもの状況や支援内容について情報を共有しています。また、職員が発達支援に関する知識とスキルを高められるように、定期的な研修を実施しています。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>環境や雰囲気作りを工夫し、子どもがおやつの時間を楽しく過ごせるようにしています</p> <p>学童クラブでは、おやつコーナーは遊び空間とは区切りをつけることで、落ち着いた空間を確保しています。また、職員が見守りながら適切な声掛けをおこなうことで、こどもたちがリラックスし和やかな雰囲気の中でおやつを楽しめるよう配慮しています。おやつの提供については、学童クラブの申込書類の中にアレルギー調査票を設けており、保護者から必要事項を記載してもらうことで、こどもの健康や安全に配慮しています。さらに、季節の果物や行事にちなんだメニューを取り入れることで、こどもたちの興味や楽しみを引き出しています。</p> <p>季節感を取り入れたおやつを提供し、こどもたちの希望にも対応しています</p> <p>学童クラブでは、来所時間や学年、夕食の時間帯を考慮し、学年ごとにおやつの提供時間を調整しています。また、個別のこどもや保護者の希望に応じて、おやつの量を調節しています。メニューはできるだけ手作りのものを取り入れ、季節感のある内容やこどもの好みに合わせたものを提供しています。さらに、こどもの好みや希望を反映するために、日常の会話の中でおやつのリクエストを聞いたり、アンケートを実施したりしています。また、誕生月にはそのこどもがリクエストしたおやつを取り入れ、特別感を味わえるよう配慮しています。</p> <p>保護者から提供されたアレルギー情報にもとづき、個別対応したおやつを提供しています</p> <p>学童クラブでは、保護者から提出されたアレルギー調査票の情報をもとに、個々の状況に応じたおやつを提供しています。アレルギー対応は、港区児童館学童クラブにおける食物アレルギー対応マニュアルや、東京都アレルギー対応マニュアルにもとづき、適切に対応できるよう研修を実施しています。また、施設内には調理スペースが充実しており、衛生管理に万全を期した運用をおこなっています。食品の取扱いについては、食品の衛生マニュアルに従い、職員がこどもと一緒に準備を進める際にも食中毒予防や衛生管理の指導をおこなっています。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>こどもと一緒に安全や健康について考え、自分の身を守る意識を育てています スポーツや活動時には、職員が注意点を一方的に伝えるのではなく、こどもたちと一緒に危険箇所を考える時間を設け、自分の身を守る意識を育むよう取り組んでいます。また、衛生的で健康的な生活を送るために、手洗いやうがいの重要性を日々の保育の中で伝えていきます。事故や怪我が発生した場合には、迅速に館長や事務室職員に引き継ぎ、必要な人員体制を整えて対応しています。軽微な怪我に関しては、怪我発生対応記録簿に記録し、重大な場合には港区指定の書式を使用して報告書を作成し、再発防止策を話し合っています。</p> <p>医療機関と連携し、慢性疾患を持つこどもに対して適切な支援をおこなっています 慢性疾患を持つこどもへの対応として、専門機関との連携を重視し、一人ひとりの状況に応じた適切な支援をおこなっています。喘息やアレルギー性疾患などを持つこどもに対しては、事前に保護者や医療機関と情報共有をおこない、必要なケアや対応について具体的に確認しています。緊急時の対応についても職員が統一した認識を持つために、マニュアルを活用しながら、定期的な研修を通じてスキル向上に努めています。さらに、保護者と継続的に連絡を取り合い、ともにこどもの健康管理に取り組むことで、安心して生活できる環境を提供しています。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>不登校のこどもに必要な支援を提供し、安心できる居場所を作っています 不登校のこどもについては、保護者や学校と連携して児童館での朝からの受け入れなど、特別な援助をおこなう体制を整えています。また、こどもが安心して過ごせる居場所を提供するため、無理に活動を強制せず、リラックスできる静かなスペースや自由に過ごせる環境を用意しています。これにより、保護者が安心して働きながら、こどもが自分らしく過ごせるサポートを実現しています。また、保護者同士の交流を促進するために、行事に保護者が参加できる機会を設けたり、ボランティアとして協力を依頼したりすることで交流の場を提供しています。</p> <p>こどもの様子を共有し、保護者との円滑なコミュニケーションを図っています 保護者と職員の信頼関係を深めるため、学童クラブでは年2回の保護者会や年1回の個別面談を実施しています。日常的にもお迎え時の会話を大切に、こどもの様子を共有することで保護者との円滑なコミュニケーションを図っています。児童館では、相談しやすい環境づくりを意識し、親しみやすい雰囲気作りを心がけています。また、陶芸などの親子向けイベントを開催し、イベント後には保護者アンケートを実施し、改善に役立てています。さらに、施設全体のアンケートも定期的実施し、その結果を保護者におたよりでフィードバックしています。</p> <p>共通認識を図るため、学童クラブでの面談や連絡帳で保護者と情報を共有しています 学童クラブでは、個別面談のほか、必要に応じて連絡帳や電話で情報を共有し、保護者との相談や情報提供を通じてこどもの状況について共通認識を図っています。児童館では、こどもが作成した作品や活動中の写真を保護者に見せることで、こどもの成長を具体的に伝えていきます。また、こどもの発達段階に応じた特徴や対応方法を学ぶ保護者向け講座やセミナーを開催し、家庭での理解を促すための資料も配布しています。さらに、こどもの安全確保のため、出欠確認や帰宅時間は連絡帳で管理し、不明な点があれば必ず保護者と連絡を取るようになっています。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>密接な地域との連携で、こどもたちの自然体験や世代間交流を促進しています</p> <p>台場地区は商業施設や保育園、幼稚園などが密接に関わり合う環境が整っており、夏まつりやクリスマスコンサートなど、地域と連携したイベントを通じて自然に交流をしています。また、商業施設から提供された残飯を活用した肥料で花や球根をこどもたちが植える活動を実施し、自然との関わりを深めています。さらに、高齢者在宅サービスセンターとの装飾作りやコンサートを通じて世代間交流を図り、児童館や区民センター、図書館も同じ建物内で利用しやすい環境を活用し、こどもたちが豊かな生活経験を積むことができるようにしています。</p> <p>学童クラブや児童館が地域イベントに積極的に参加し、交流を楽しんでいます</p> <p>地域の青少年お台場地区委員会や学校、幼稚園のPTAなどの連携が強く、イベントの実施時には協力を仰ぎ、地域全体で支え合う体制を構築しています。学童クラブや児童館は、地域イベントのお台場夏祭りやハロウィンなどに主体的に参加し、こどもたちが地域の大人や他のこどもたちと交流する場を設けています。また、児童館まつりでは、各店舗の運営に地域関係者やPTAが参加し、アクセサリ作りや事前のクッキーづくりなどを共同でおこなっています。さまざまな活動を通じて、こどもたちが地域の一員であることを実感できる環境を提供しています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	地域と連携し、児童館として子どもが安心して過ごせる環境を整えています	
内容①	地域との連携を大切に、関係機関と密接に協力しながら、子どもが安心して過ごせる環境を整えています。地区委員会や防災協議会、自治会をはじめ、幼稚園や保育園、高齢者施設、区民センター、ボランティア団体などと常に連携を図り、地域に根差した児童館としての役割を担っています。こうした関係性の構築により、誰もが足を運びやすく相談しやすい場として機能し、児童福祉にとどまらず、地域全体の福祉行政にも貢献しています。また、地域の声に耳を傾け、その意見を区に届けられるように心掛け、地域のニーズを反映した支援をおこなっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	子どもの興味を尊重し、主体的に過ごし安心できる居場所を提供しています	
内容②	「子どもまんなか児童館」として、子どもたちが安心して過ごせる居場所作りに力を入れています。子ども一人ひとりの気持ちや興味を大切に、やりたいことを自由に選べる環境を整えることで、自ら考え行動できる力を育てています。友だちができる場であり、子どもたちを見守り応援する大人がいる場所であり、くつろげる空間としての役割も果たしています。また、豊富な体験活動を提供しながらも、自由に遊びを展開できる時間や空間を確保し、自発的な活動を尊重することで、子どもたちがのびのびと過ごせる児童館の在り方を追求しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	職員間の連携強化や、一人ひとりのスキルアップに注力しています	
内容③	職員が一人ひとりの強みを生かし、職員同士で弱みをカバーし、職員間の協力体制を強化しています。また、スピード感をもって新たな課題の発見と解決に取り組んでいます。職員会議は、一つの課題について細かいことでも職員全体で共有し、解決に向けて検討する場としています。マニュアル類などは職員がいつでも内容を確認しやすいようにデータ化しており、児童館・学童クラブの職員としてのスキルを上げるために、ほぼ全員が東京都放課後児童支援員の資格を取得し、毎年専門性を高めるための研修に参加しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	リニューアルした全面改修の建物で、衛生的で使用しやすい環境を保つことに努めています
	内容	内装の全面的な変更や児童館エリアの拡張、周辺施設も含んだ大規模な施設改修を2024年に完了しました。改修をきっかけに、利用者が安全に安心してのびのび活動ができる、衛生的で使用しやすい環境になりました。用途別の広い倉庫や活用範囲の広い部屋などは、整理整頓が行き届いた状態を保つことに努め、居心地の良い児童館として環境の整備に力を入れています。
2	タイトル	異年齢交流を大切に、子どもたちが年齢の枠を超えて自然に関わり合う環境を整え、思いやりや社会性を育む環境作りをおこなっています
	内容	年齢や個性に応じた施設や玩具を十分に用意し、子どもたちが興味のある遊びを自由に選び、年齢の異なる友だちと楽しめる環境を整えています。また、卒業生がボランティアやアルバイトとして関わる機会も多く、児童館を中心に地域とのつながりを築いています。職員同士の良好なコミュニケーションで施設全体に温かい雰囲気を生み出し、子どもたちに年齢の違いを意識せずに自然と声をかけ合えるような環境づくりを心がけることで、異年齢の関わりの中で思いやりや社会性を学び、豊かな人間関係を築く力を育てています。
3	タイトル	信頼関係を大切にしながら保護者の想いを受け止め、密な情報共有を通じて、家庭の状況に寄り添った支援をおこなっています
	内容	子どもの目線に立ち、子育てをしている人の声に耳を傾けることを基本とし、まずは保護者の想いを受け止め、ともに困りごとを解決する姿勢を大切にしています。年2回の保護者会や年1回の個別面談を実施し、日常的にもお迎えの際の会話を通じて子どもの様子を伝えるなど、保護者との密な情報共有を心がけています。また、保護者が気軽に話しかけやすい環境を整え、相談しやすい関係性を築いています。職員同士も日々情報共有し、前向きな対応策を検討することで、より保護者に寄り添った支援をおこなっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者一人ひとりの利用期間が長期的になるという特徴があるため、安定した職員配置が期待されます
	内容	当施設は、0歳から18歳までの利用者が継続して使用する施設です。また学童クラブにおいても1年生から6年生まで長い期間に渡って継続的に利用する児童が増加しています。それぞれの年代に合わせた多様なプログラムをおこなっています。今後は、先を見据えた指導や継続した見守りをするため経験の積み重ねと連続性のある職員配置が理想です。単年度任用の職員や、多職種から異動で配属される職員もいますが、より質の高いサービスを提供するために、安定した職員配置が期待されます。
2	タイトル	周知方法の工夫をして、乳幼児親子の利用率が増加するように取り組んでいくことが期待されます
	内容	児童館では乳幼児親子の支援をおこない、子育て家庭の悩みの解消や、居場所の提供に取り組んでいます。地域内の乳幼児を持つ家庭そのものが減少傾向にあることもあり、利用が少ない日が見受けられます。乳幼児期からの利用が、学童期の利用において安心材料になることもあるため、周知方法に工夫をしつつ、乳幼児親子の利用率を増やすための取り組みが期待されます。
3	タイトル	近年おこなっているICTシステムの導入の範囲を広げるなど、さらなる業務の効率化を図っていくことが期待されます
	内容	ICTシステムの活用として、入退館アプリを導入し、入退館管理における状況確認をおこないやすくしています。職員間の連絡手段や情報共有ツールとしてグループチャットの導入をおこない、同じ建物内の他施設の職員との連携もとりやすい環境を構築しています。今後は、さまざまな記録などにおいてもICTシステムの活用をおこなうなど、限られた人員の中で、さらに効率化を図っていくことが期待されます。